

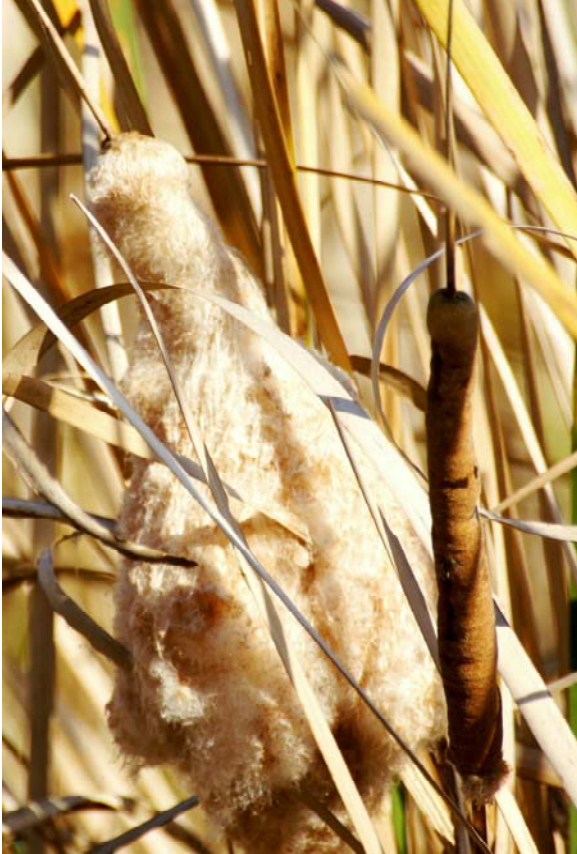
# 牛久：学校周辺に見る自然

第49号 みずべ公園（ひたち野うしく小）

2016年11月30日発行

## ＜ 秋の終わりに、そよかぜ学級とみずべ公園を歩く ②種子散布と冬芽 ＞

11/17、ひたち野うしく小そよかぜ学級の皆さんと歩いた、秋の終わりのみずべ公園。今回は植物の冬ごし対策の一つ、種子散布と冬芽について。



わた毛で風によって種子散布するヒメガマの穂(左上：左側のはタネを飛ばしている)とススキの穂(左下)。 つばさでクルクル回りながら風で運ばれるアカシデ(右上)とイヌシデ(右下)の穂。

草や木は秋に実りの季節をむかえ、冬にかけてタネを散布し新しいなかまをふやすものが多く見られます。その運ばれ方はそれぞれで、ヒメガマやアカシデのようにわた毛やつばさで風によって運ばれるもの、アメリカセンダングサやオナモミのようにフックなどで動物の毛皮にくっついて運ばれるもの、コブシやエノキなど鳥に食べられて運ばれ糞として落されるもの、どんぐりのようにネズミやリスが集めて忘れられたり食べ残されたりして芽生えるものなどいろいろな方法がとられます。鳥が食べる実は、赤や青、むらさきなど目だつ色をしているものが多いですね。 以前にも書いたことがあ





ったと思いますが、うちのせまい庭には鳥がタネを運んで来たと思われる木がたくさん生えています。次はどんな木が芽生えてくるか楽しみでもあります。

もう冬鳥の季節ですね。皆さんも、きれいな実のなる木に鳥がいたらぜひ観察してみましょう。

フックで動物の毛皮にひっついて運ばれる、アメリカセンダングサ。



鳥が食べて運ばれ糞としてタネが落とされる木の実。イシミカワ(左上)、エノキ(左中)、ヒサカキ(右上)、ゴンズイ(右中)、クサギ(右下)。左下は、あたたかそうな毛でおおわれたコブシの大きな花芽(花の赤ちゃんが入っている)と小さな葉芽(葉や茎の赤ちゃんが入っている)。

最後にコブシの冬芽。この中で花や葉、茎の赤ちゃんが冬の寒さや乾燥にたえ、春を迎えます。【理科支援員:宮内】